

今回のテーマ

企業年金についてその5

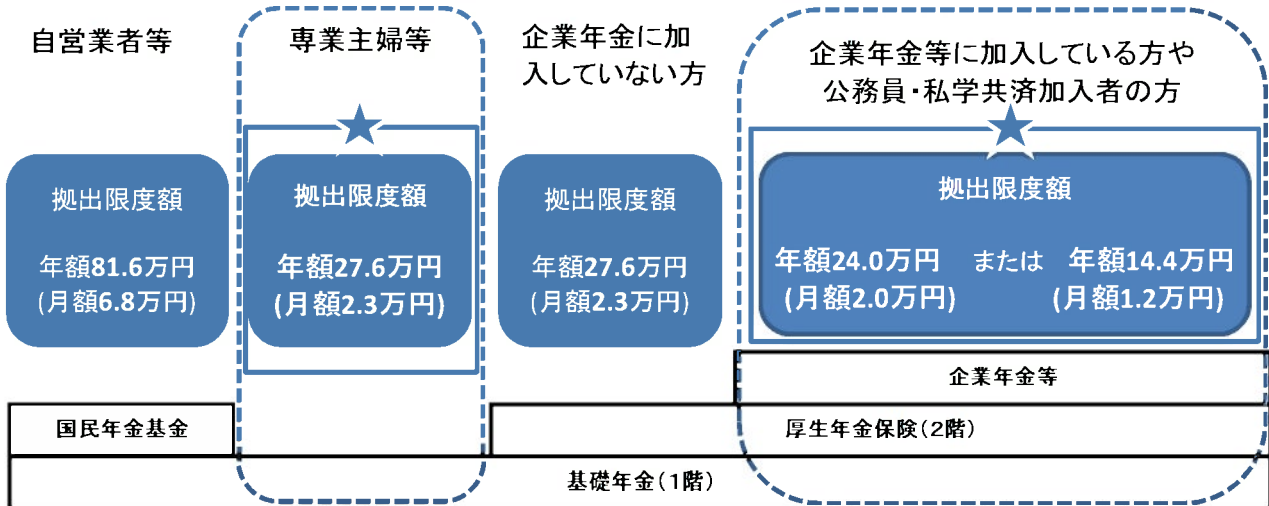
第178回で取り上げました確定拠出年金(日本版401k)。あまり脚光を浴びていなかった『個人型』ですが、加入対象者が大幅に拡充され、愛称『iDeCo』が付けられることで注目されています。

- 2001年10月、「確定拠出年金法」施行によってスタート。2017年1月から基本的に60歳未満のすべての方が加入対象になります。
- 「個人型」の加入者数約27万人(2016年6月末)。ちなみに企業型は579万人です。
- 掛金は全額所得控除の対象となり、運用益は非課税で再投資され、受け取る時にも税制優遇措置があります。

★確定拠出年金(個人型) 愛称:iDeCo(イデコ)

iDeCoは基礎年金(1階部分)厚生年金保険(2階部分)などの公的年金に上乗せして給付を受ける私的年金(3階部分)のひとつです。iDeCoの加入者は、これまで自営業者の方などに限られていましたが、2017年1月からは、企業年金を実施している企業にお勤めの方や専業主婦、公務員の方を含め、基本的に全ての方が加入できるようになります。加えて、転職したときなどの積立資産の持ち運び(ポータビリティ)も拡充し、より使いやすい仕組みになります。

●『★』が2017年1月から、新たに加入できるようになる部分です。



豆知識シリーズ:
「現代のがん治

がん治療は大きく分けて「手術療法」「放射線療法」「化学療法(抗がん剤等)」の3つがあり、注射や点滴、または飲み薬で治療を施すことを化学療法と呼びます。薬剤が血液から全身に回るため、全身に対して効果が期待できます。この療法は強い副作用がでることもありますが、最近では、副作用の少ない薬剤の開発が進んでいます。

意外と高額!

がん治療にはいったいいくら必要?



がん治療には高額な費用がかかることも...
経済的な備えも重要です

治療にかかわる費用

診察料、入院料、検査料、手術料、薬代、注射料など

保険外診療分

診断書など文書料、差額ベッド代、先進医療の技術料など

その他 交通費、入院中の日用品 など

公的医療保険か

一部自己負担

全額自己負担

全額自己負担

日本の医療制度では保険外診療(自由診療)を受けると、その治療以外の診察料、検査料、入院料まで自己負担とされ、患者さんの負担は非常に重くなりがちです。そこで設けられたのが「先進医療」制度。先進医療の技術料は自己負担ですが、それ以外の費用は公的医療適用のため、特に「がん」のような高額治療において患者さんの負担を大きく軽減できる制度です。

<担当:西丸保幸>